

## 解説

# 当世中国ビジネス事情 — 上海駐在報告 —

筒井 洋一

奥村機械製作(株)  
上海代表所 首席代表



### 1. 地下鉄を中心に建設需要は堅調

2008年の北京オリンピックを成功させた当地中国の経済は、きたる2010年の上海万国博に向けさらに発展を続けています。各都市部の再開発地域における高層マンションの建設や経済開発区設立のペースも依然として活発。都市トンネル建設に関しては、通行量の増加による交通事情の悪化と排気ガス公害への対策として地下鉄網の整備と道路トンネルの建設が急務であるとして、各都市部において計画が進んでいます。中でも地下鉄網整備が中国国内では最も進んでいる上海では現在建設のピークを迎えており、これが他の地方都市（基本的施策で人口500万人以上の都市は地下鉄建設の対象で現在中国全土に50～60あるようです）に波及している現状です。

中国国内の主要地域の土質はおおまかに、上海を中心とした軟弱土、北京を中心とした礫混じり土、さらに南の広州に見られる岩質土に区分されます。このような中国の大地の地下にトンネルを穿つ掘進機は、歴史的にはヨーロッパのメーカ製が先行して導入されてきましたが、最近では同じ

アジアの日本製品が注目されているようです。

上海での地下鉄建設ラッシュに続くのは、輻輳する地下鉄の連絡通路としての矩形人道トンネルや、膨大な棟数にのぼる高層マンションへのライフラインを供給するトンネルの建設です。また、あふれる車の地下駐車場などの地下空間の建設も望まれています。さらに上海では少し雨が降ると道路が冠水し、車や歩行者が立往生することがしばしばあるため、下水道の整備も急がれます。

現在までのところ、上海の都市開発当局者たちの関心は地下鉄網や大河横断の直径15mクラスの道路トンネルに向っていますが、上記のような推進クラスのトンネル需要は確実に高まっています。これに対して中国国内にも推進機メーカは存在し、国内の施工業者も技術的には1スパン1km強の推進実績をもつようですが、比較的難度の低い土質での実績しかないため、日本の複合土質対応技術への期待が強まっており、ビジネスチャンスは大いにあると思われます。事実、プレゼンの席上でクライアントが硬質土や曲線推進などに強い興味を示し、質問攻めに合う場面も少なくありません。

## 2. 気持ちが通じ合えば商談も円滑に

中国におけるビジネスでは、技術面だけでなく、入札、通関、為替、集金などの商取引や商習慣の面においても、この国ならではの問題が生じます。一例をあげれば、私が上海へ赴任当初、『中国人はファミリーや友達のつながりをとても大切にする』と聞かされていたこともあって有望客にコネのある紹介者を探しました。そんな私に「発注権限を持っている人物は友人だから」と自称する多くのブローカーが接触してきましたが、結局、友人ではなく単なる知人だったというケースも少なくありませんでした。しかし、確実なパイプを通じて獲得した顧客と腹を割ってつき合えば、かなりの厳しい条件や無理な要求も通ることが最近分かったような気がします。

そのようなこともあって、私の上海駐在の3年半のうち、最初の2年半は成約がゼロ。ビジネスがようやく軌道に乗り出したのは、わずかこの一年のことです。具体的には、北京の国営企業へ電力管路用トンネル掘進用として外径3.63m（写真-1）と外径4.13mとの泥土圧シールド機2基（全日本製作）、それに上海とインドの大手ゼネコンがJVで施工するインドのニューデリー空港地下鉄線用外径6.41m泥土圧シールド機（写真-2）2基（主要部分を日本から持ち込み、上海の協力会社工場で組立）を納入することができました。



写真-1 北京の電力管路用トンネル掘進用として  
外径3.63mの泥土圧シールド機

上記の案件のように、中国の建設会社は中国国内に留まらずインドをはじめ東南アジアや中近東地域にも積極的に進出し実績を上げていますので、将来的にはこれらの市場もたいへん有望です。

さらに日本国内とは異なり、当地のシールド機は推進機と同じように一つの現場限りではなく複数の現場で転用しますが、それでもシールド機の需要に対して供給数が不足している現状です。とはいえ価格的には特殊な条件でもない限りかなり工夫を要することも確かです。

## 3. 上海駐在員の3大死亡原因とは!?

先日、現地誌が「駐在員の死亡は『ガス事故』、『交通事故』と『自殺』が3大原因」と報じていました。「ガス事故」はガス漏れを頻発する劣悪なインフラ、「交通事故」は車優先の都市構造、そして「自殺」は、本社のコンプライアンスと中国独特の商習慣との板挟みによるストレスがその背景にあるとのことでした。しかし、私たち駐在員にとって、ビジネスに限らず職場の外の日常生活も大きな意味での「上海マター」。生活環境のストレスも当地ならではのものがあります。

たとえば、乗り物の乗車待ちの列への横入りや車内における大声での携帯電話使用、さらに路上にツバを吐くなどのマナーの悪さ、商店や飲食店の店員の接客態度の悪さ。北京五輪を契機に最近



写真-2 インドのニューデリー空港地下鉄線用  
外径6.41mの泥土圧シールド機